

倉敷市生物多様性地域戦略
短期的目標
(2030年度)
評価シート

生物多様性地域戦略評価シート

基本目標1

倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

短期的目標(2030)

- (1) 生物多様性に係る調査・研究により、必要な情報が整備されて広く共有されている。(①)
(2) 生物多様性に係る地域評価手法を確立している。(②)

取り組み

- ① 生物多様性調査の実施
② 生物多様性に係る情報の整備・充実

SDGs



数値目標

	該当取組	基準値	実績値	状況	目標値
1-1 自然環境基礎調査の実施件数 (関連部署: 市環境政策課)	①	0件/年 (R元)	0件/年 (R5)	×	1件/年 (R12)
1-2 市民参加型生き物調査の実施(報告件数) (関連部署: 市環境政策課)	①	- (R元)	110件/年 (R5)	△	500件/年 (R12)
1-3 市民団体等による自然環境調査、観察会等の実施件数 (関連部署: 市環境学習センター、自然史博物館他)	①	63件/年 (R元)	36件/年 (R5)	×	現状維持
1-4 自然史博物館 標本登録件数(積み上げ) (関連部署: 市自然史博物館)	②	498,886点 (R元)	547,790点 (R5)	△	56万点→65万点 (R5) → (R10)

以下、2030年度短期的目標の総合評価に使用する項目

1-A 河川・水辺の国勢調査(高梁川・小田川の魚類及び底生動物の指標種の種数) (引用元: 国土交通省、5年に1回実施(基準値: H29年度(魚類)、H28年度(底生動物)))(最新: R3年度(底生動物))	①	○魚類 4/5種(高梁川・水江) 4/5種(小田川・琴弾橋上流) 5/5種(高梁川・河口) ○底生動物 5/5種(高梁川・水江) 1/5種(小田川・琴弾橋上流) 5/5種(高梁川・河口)	○底生動物 4/5種(高梁川・水江) 1/5種(小田川・琴弾橋上流) 4/5種(高梁川・河口) (R3)		-
---	---	--	--	--	---

- : 達成
△ : 進展なし又は進展があったが達成には不十分
× : 後退

生物多様性地域戦略評価シート

基本目標2

身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

短期的目標(2030)

- (1) 市域の生態系を構成する森・山、河川・水辺、海域・海辺・海岸などの自然生態系、里地・里山、農用地、ため池などの人と自然のふれあいに係る生態系、及び市街地の都市公園・緑地等の生態系が保持されるようになっている。(①、②、③)
 (2) 生物多様性の損失を食い止める。(④、⑤、⑥)
 (3) 地域の希少な生物種・生態系が保全され、その生息・存続を確かにする状態となっている。(④、⑤)

取り組み

- ① 総合的・計画的な保全体系の拡充
 ② 地域の自然と生態系ネットワークの保全
 ③ 地域ごとの自然環境の保全
 ④ 重要地区の保全
 ⑤ 希少野生生物の生息・生育環境の保全
 ⑥ 外来生物対策

SDGs



数値目標

	該当取組	基準値	実績値	状況	目標値
2-1 都市公園の総面積 (関係部署: 市公園緑地課)	②	393.6ha (R元)	396.3ha (R5)	△	476.3ha (R17)
2-2 温室効果ガス排出量の抑制(市内全域) (関連部署: 市地球温暖化対策室)	②	3,176万トン (H28)	2,994万トン (R3)	○	3,053万トン →2,282万トン (R12)
2-3 市内で下水道を利用できる人の割合 (関連部署: 市下水経営計画課)	②	80.6% (R元)	82.1% (R5)	△	82.4% (R7)
2-4 自然環境に配慮した工法(自然環境保全マニュアル)などにより整備された、河川やため池、護岸等の工事件数(保護移動を除く) (関連部署: 市環境政策課他)	⑤	0件/年 (R元)	0件/年 (R5)	×	2件/年 (R12)
2-5 希少野生生物の生息地での工事に伴う保護対策を実施した割合 (関連部署: 市環境政策課他)	⑤	100% (8件/8件) (R元)	100% (11件/11件) (R5)	○	100% (R12)
2-6 希少野生生物の生息地での保全実施件数 (関連部署: 市環境政策課)	⑤	5件/年 (R元)	5件/年 (R5)	○	現状維持
2-7 農作物のヌートリアを含む鳥獣被害面積及び被害額 (関連部署: 市農林水産課)	⑥	被害面積 1.57ha 被害金額 12,034千円 (R元)	被害面積 6.73ha 被害金額 19,662千円 (R5)	△	被害面積 8.94ha 被害金額 19,522千円 (R7)
2-8 特定外来生物(ヒアリ、アカカミアリ、アルゼンチンアリ)の定着件数 (関連部署: 市環境政策課)	⑥	0件 (R元)	0件 (R5)	○	現状維持

以下、2030年度短期的目標の総合評価に使用する項目

2-A 倉敷市の山林面積 (引用元:倉敷市統計書)	③	5,672ha (R元)	5,665ha (R5)	-	-
2-B 岡山県のアマモ場面積 (引用元:県水産課)	④	1,845ha (H27)	1,878ha (R2)	-	-
2-C 岡山県版レッドデータブックの倉敷市内の確認件数 (関連部署:市環境政策課、自然史博物館、レッドデータブックの更新は約10年に1回))	⑤	558種 /1485種 (R2)	-	-	-
2-D 保護移動の実施や自然環境に配慮した工法(自然環境保全マニュアル)などにより整備された、河川やため池、護岸等の工事割合((保護移動や環境に配慮した工事件数)/河川、ため池、護岸等の工事件数) (関連部署:市環境政策課他)	⑤	12.3% ((8+0)件 /65件) (R元)	15.7% ((11+0)件 /70件) (R5)	○	15% (R12)

○ : 達成

△ : 進展なし又は進展があったが達成には不十分

× : 後退

生物多様性地域戦略評価シート

基本目標3

生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。

短期的目標(2030)

- (1) 生物多様性の持続的利用ができるようになっている。(①)
(2) 生物多様性をより豊かにする取り組みを始めている。(②)

取り組み

- ① 環境配慮型農業と地産地消の推進
② 生物多様性に配慮した地域開発と産業、事業活動の推進

SDGs



数値目標

	該当取組	基準値	実績値	状況	目標値
3-1 「環境保全型農業直接支払制度」取組団体 (関連部署:市農林水産課)	①	5団体 (R元)	6団体(R5)	△	10団体 (R12)
3-2 市民農園区画数 (関連部署:市農林水産課)	①	663区画 (R元)	608区画 (R5)	×	現状維持
3-3 新規就農者数 (関連部署:市農林水産課)	①	15人 (R元)	46人 (R5:13人)	△	120人増 (R3-R12の累積)
3-4 有機JAS認定農業者数(団体) (関連部署:市農林水産課)	①	8団体 (R元)	10団体 (R5)	○	10団体 (R12)
3-5 おかやま有機無農薬農産物生産農業者数(団体) (関連部署:市農林水産課)	①	6団体 (R元)	6団体 (R5)	△	10団体 (R12)
3-6 地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている企業の割合 (引用元:市環境政策課 アンケート(隔年))	②	24.2% (32/132社) (R元)	※65.5% (72/110社) (R5)	×	※60% → 80% (R12)
以下、2030年度短期的目標の総合評価に使用する項目					
3-A 「環境保全型農業直接支援対策」取組面積／耕地面積 (引用元:農林水産省中国四国農政局統計部、関連部署:市農林水産課)	①	4,289a /3,910ha (1.1%) (R元)	6,800a /3,590ha (1.9%) (R5)	-	-
3-B 新規就農者数(累積)／就農者数(販売農業) (引用元:農林業センサス(5年に1回調査実施)、関連部署:市農林水産課)	①	15人(R元) /4,361人 (H27)	46人(R5) /2,375人 (R2)		-

※R3よりアンケートを選択肢から選ぶ方法に変更したところ、回答が増えている。

- : 達成
△ : 進展なし又は進展があったが達成には不十分
× : 後退

生物多様性地域戦略評価シート

基本目標4

倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

短期的目標(2030)

(1) 生物多様性保全に係る望ましい環境像と社会の関係に関する自身の考え方、すなわち「環境観」が、現状よりも多くの市民に理解される地域となっている。(①、②、③、④、⑤、⑥)

取り組み

- ① 市民への環境学習機会の提供
- ② 支援者、指導者の育成
- ③ 子どもたちへの環境学習の充実
- ④ 社会貢献活動や自然共生圏を意識した地域交流経済活動の支援
- ⑤ エコツーリズム等の推進
- ⑥ 自然とのふれあいの促進

SDGs



数値目標

	該当取組	基準値	実績値	状況	目標値
4-1 環境フェスティバル来場者数 (R5から環境フェアに統合) (関連部署: 市環境政策課、環境学習センター)	①	5,000人 (R元)	5,150人 (R5)	○	現状維持
4-2 自然の中で遊ぶことが楽しいと思っている子ども(小4-中2)の割合 (引用元: 第七次総合計画指標)	③	84.4% (R元)	84.0% (R5)	×	88% (R12)
4-3 小学生を対象とした出前講座受講者数(環境分野) (関連部署: 市生涯学習課)	③	913人 (R元)	1,379人 (R5)	○	現状維持
4-4 自然にふれたり、学んだりする活動に参加している子どもの数(屋内講座やイベント含む) (引用元: 第七次総合計画指標)	③	11,533人 (R元)	15,303人 (R5)	△	18,000人 (R12)
4-5 生物多様性エコツアーの実施 (関連部署: 市環境政策課)	⑤	1件/年 (R元)	1件/年 (R5)	○	1件/年 (R12)
4-6 身近なところで、生き物(動物、昆虫や植物など)にふれあえる場や機会(イベントを含む)があると思う人の割合 (引用元: 第七次総合計画指標)	⑥	32.8% (R2)	24.6% (R5)	×	43% (R12)

- : 達成
 △ : 進展なし又は進展があったが達成には不十分
 × : 後退

【案】基本目標（2030年）評価のイメージ

総合的に検討するために、基本目標ごとの評価値の平均を図に示します。値が3に近いほど評価が高く、1に近いほど遅れていることを示します。

基本目標		短期的目標(2030)		数値目標 項目数	基準年度の数 値を下回る項 目数	評価				
						達成	進展があつ たが達成に は不十分	進展なし 後退	平均値	
										3
1	倉敷の生態系 の状況と生き物 と暮らしとのつ ながりを把握す る。	(1)	生物多様性に係る調査・研究により、必要な情報が整備されて広く共有されている。	3	1		1	2	1.33	
		(2)	生物多様性に係る地域評価手法を確立している。	1			1		2.00	
		小計		4	1	0	2	2	1.50	
2	身近な自然とその つながり及び 希少野生生物 の生息・生育環 境を保全、回 復、再生する。	(1)	市域の生態系を構成する森・山、河川・水辺、海域・海辺・海岸などの自然生態系、里地・里山、農用地、ため池などの人と自然のふれあいに係る生態系、および市街地の都市公園・緑地等の生態系が保持されるようになっている。	3		1	2		2.33	
		(2)	生物多様性の損失を食い止める。	4	1	3	1		2.75	
		(3)	地域の希少な生物種・生態系が保全され、その生息・存続を確かにする状態となっている。	1				1	1.00	
		小計(重複する数値目標を除く)		8	1	4	3	1	2.38	
3	生物多様性の 恩恵を持続的に 受けられるよう に自然資源を利用する	(1)	生物多様性の持続的利用ができるようになっている。	5	1	1	3	1	2.00	
		(2)	生物多様性をより豊かにする取り組みを始めている。	1				1	1.00	
		小計		6	1	1	3	2	1.83	
4	倉敷の生物多 様性の保全と持 続的な利用に向 けて、行動でき る人づくり、地域 づくりを行う。	(1)	生物多様性保全に係る望ましい環境像と社会の関係に関する自身の考え方、すなわち「環境観」が、現状よりも多くの市民に理解される地域となっている。	6	2	3	1	2	2.17	
		小計		6	2	3	1	2	2.17	
										1.97

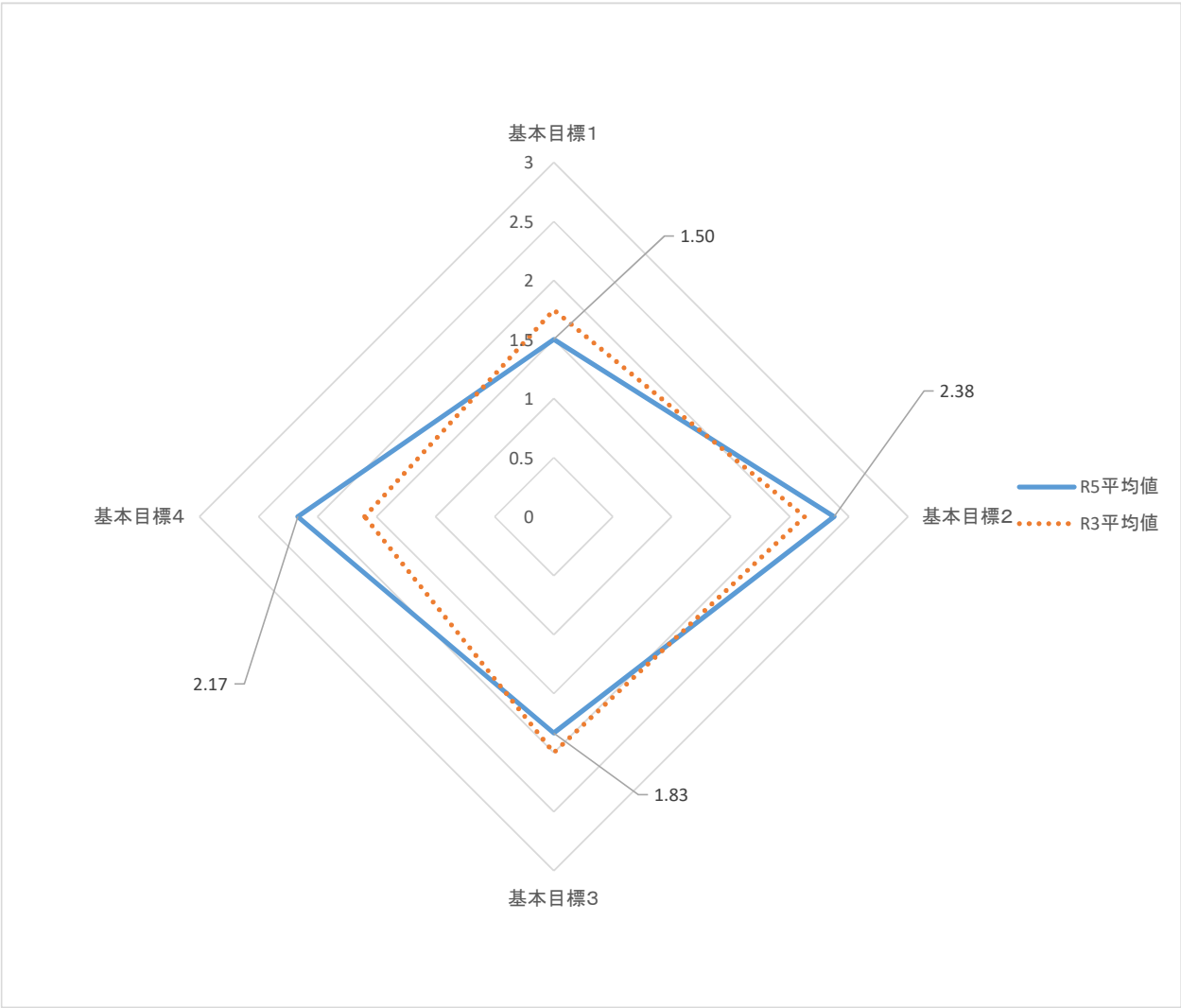
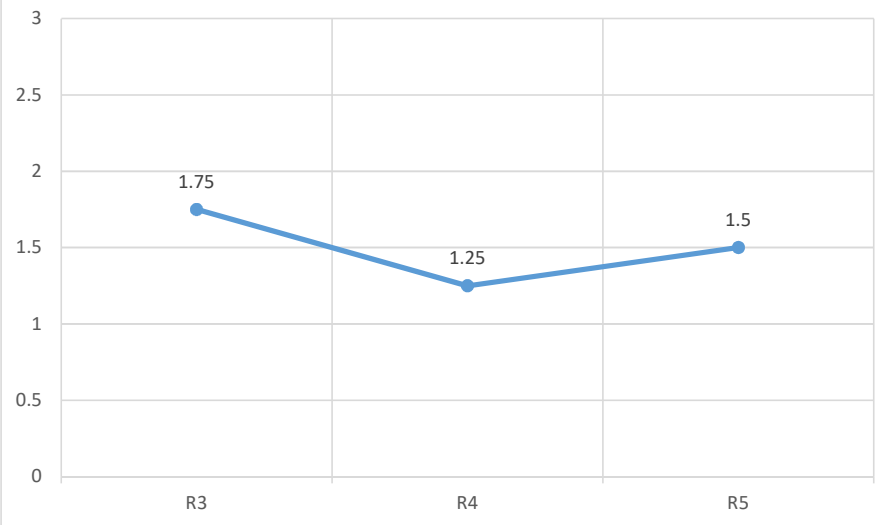


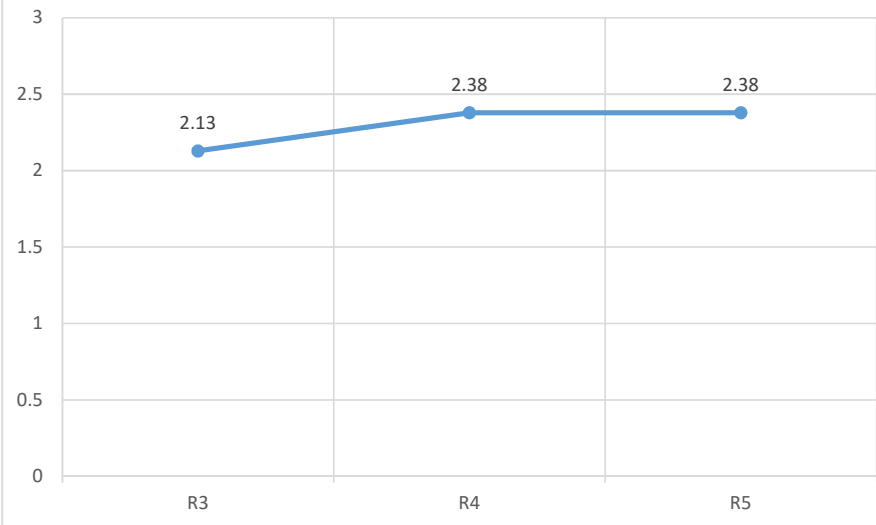
図 基本目標ごとの評価値の平均

基本目標ごとの評価値の平均の推移

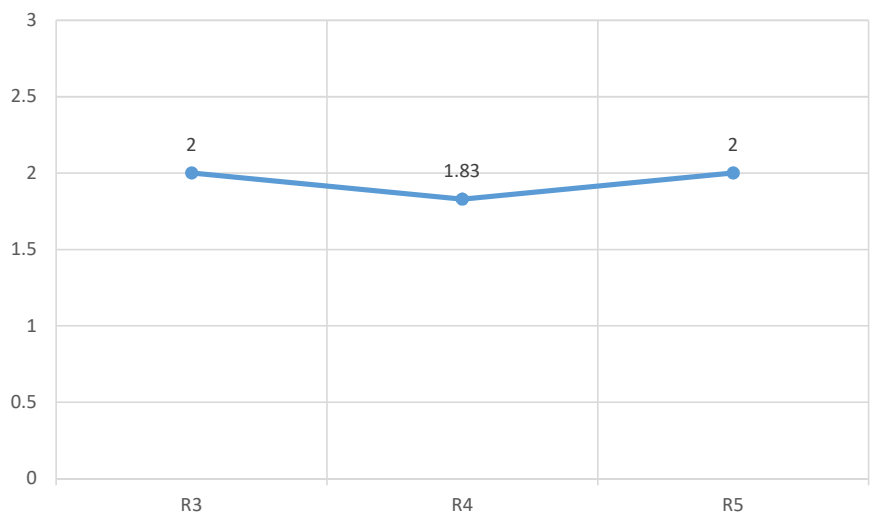
基本目標1



基本目標2



基本目標3



基本目標4

